

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491200012		
法人名	有限会社 スマイルリース		
事業所名	グループホーム 陽だまりの丘		
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233番地1		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4491200012-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4491200012-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府奄番館 1F		
訪問調査日	平成30年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれたこの地で、四季折々の草花に囲まれ、心静かに余生を送っていただけるよう、職員一同で、人尊優顔の精神の基、笑顔と真心で支援させていただいています。また、高齢者の方が多く、家族の希望により、看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の役割りにおいて、地域介護支援センターとして地域福祉への貢献、「人尊優顔」の精神を法人理念として表明しており、施設では、「声かけ」の大切さ・重要性を支援のポイントに掲げる組織づくりにおいて、個々の職員の意向の把握と意見の共有、職員相互連携の有り方、職員協同と施設運営の展開など、向上に志する管理者の姿勢が伺えます。利用者の心身状態と個性(入所以前の情報を含む)、利用者の折々の思いの把握と家族の意向を大切に、寄り添える援助への取り組みに努めています。職員相互の情報共有と周知を支援に繋ぐチームづくり(職務配置の見直し等)にも取り組むなど、利用者の心身の健全保持・日常の豊かさ(個の尊重)を支える様子が伺えます。施設の展開(法人との共利と独自性のある施設運営)を目指す姿勢と、地域密着型施設としての役割りへの探求と実践など、取り組むべき課題の明言に至っており、今後の発展に期待が持たれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際、利用者に対し、人尊優顔の精神で、笑顔と優しい声かけをするよう伝達している。	利用者との関わりにおいて「言葉かけ」の重要性を踏まえています。管理者は、職員の思い・チーム意識(支援の繋がり)など、意向の把握(個別の話し合い)に取り組んでおり、支援の有り方と志す施設づくり、チーム力の向上に力を注いでいます。	法人理念「人尊優顔」に努めています。日々の支援・地域密着型サービスの提供など、グループホーム(家庭的な環境)の特性を活かし、明示する理念や行動指針の協議(全職員)に、期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	中学校の駅伝大会の応援をしている。地域の保育園児が来所し、歌や踊りを披露してくれる。	法人内の他事業所との連携が図られており、保育園児・ボランティア等の訪問による交流も行われています。看護学生のヘルパー研修では、学生との交流を楽しむ利用者の姿や、介護と看護の相互間の学びを大切に、支援に活かしています。	地域に開かれた施設の在り方について、地域のニーズの把握(運営推進会議の活用)を視野に、地域との交流・協力に導く相互の関係づくりへの営み、その前進的な取り組みに期待が持たれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー研修の受入の際には、認知症について理解できるよう実践で学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困っている事などを推進会議で報告し、委員の方々にアドバイスを頂き、職員に報告して、利用者のケアの向上に努めている。	利用者の近況や施設の状況の伝達を通し、現状から見える課題の把握や意向、今後の取り組みにおいてのアドバイスや意見交換が行われています。相互交流と協議に努めています。	管理者は、地域に開かれた施設運営への取り組みにおいて、相互間交流に着眼しており民生委員との連携に努めています。さらに、参加したくなる会議への工夫と全職員への周知に、一層の期待が持たれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	少しでも問題点があれば、市の担当職員に相談をしながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	公共の各種機関との連携において、交流関係の必要性について把握を来しており、内容の必要性に応じて、電話・訪問での連絡・相談が行われています。アドバイスを受けるなど、相互の関係づくりが行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月一回、身体拘束廃止委員会を実施し、皆で検討しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の行動パターンや現状の姿と変化への気づきを、職員間での共有と確認の重要性を認識しており、思いの尊重・声かけの大切さを踏まえ、支援に繋げています。情報の伝達を活かす潤滑な支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を実施した際、虐待防止についても話し合いを設けて、虐待の内容に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、該当者のいない状態ですが、言葉の意味などを研修で理解してもらいながら、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族と連絡を取り合いながら、不安や疑問点がないように説明をし、理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に連絡を取り合っているが、面会の時には意見を伺い、運営に反映できるよう努めている。	家族とは、毎月の電話連絡と面会の機会において、現状の報告や相互交流を通して思いの把握に努め、支援に繋げています。管理者は、面会者が訪れたい施設の有り方について、その必要性を感得されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、ミーティングの時に、意見、提案を聞き、反映させるように努めている。	日常的なコミュニケーションや昼の会議(月2回)等と、随時の面接を通し、相互に思いを交わせる環境づくりに努める管理者の姿が伺えます。支援の向上(働き易さを含む)に繋がる職員の気づきと、意向の検討と実践・見直しが図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のケアに対する意識や実績、前向きな姿勢などを把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などに積極的に参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県小規模介護ネットワーク・大分県認知症グループ協会に加入し、様々な研修に参加することで質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安にならないよう、常に声をして、安心して過ごせる為の信頼関係の構築を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていることを詳しく聞き取り、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に今一番必要なこと、要望している事を汲み取り、しっかりとサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が、自立出来るよう「出来る事」「支援する事」をしっかりと見極めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望・家族の思いをしっかりと聞き取りながら、家族の絆を大切にし、支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来たときには、ゆっくり話ができる様、スペースの提供をするように心がけている。	家族の思いの尊重と、利用者との関係性を大切に支援しています。利用者との話題は、生活歴の把握や懐かしき思い出の内容を盛り込んだり、高齢化による周囲の環境の変化に応じた、関係性が途切れない支援の様子が伺えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	幼なじみ・同年代・難聴等、一人ひとりの情報を把握し、出来る限り話しが出来る環境を整え、寂しい事の無い様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在契約が終了する利用者はいませんが、家族・本人との関係は生涯大切にしていきたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションの中で、本人の希望・意向の把握に努めている。困難な時は、家族から情報を得るようにしている。	「声かけ」を大切に、利用者の心身状態や意向の把握に努めながら全職員間での周知に取り組んでいます。高齢化による身体機能の低下に伴う現状において、寄り添える支援の実践に努める姿勢が伺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の時、本人、家族から今までの生活スタイルの中での希望や意向を聞き把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムに添って、食事・排泄・心身状態等を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員の意見を聞き、又、ケアと一緒にしながら、現状に即したプランづくりをしている。又、月に一回モニタリングをし、実行できているかどうかの確認をしながら必要なケアを取り入れている。	毎月のモニタリングと短期3ヵ月毎の見直しにおいて、その取り組みの過程で職員の意向を反映した“アセスメント要約表”を作成活用されており、家族の意向を組み込んだ、計画策定が行われています(長期6ヵ月)。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などについては毎日個別に記録している。変化が見られた時は随時職員間で話し合い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人、家族の状況を把握し、生まれるニーズに対応している。また、デイサービスの会場にボランティア・音楽療法の人々が来所するので、合同で多機能的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の園児、地区のボランティアなどに呼びかけをする一方、小中学校の運動会や町の祭りなどの行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医を決め、受診や訪問診療で連携を図りながら支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医の受診支援はもとより、協力医療機関との連携による訪問診療体制(月2～3回)も整備されています。日々のバイタルチェックで、異常の早期発見に努めており、専門医の受診には職員が柔軟に対応を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康管理や、状態の変化などを共有し、適切な受診や対応が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し、情報や病状の経過説明を受けながら、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望であれば週末の見取り介護を行い、訪問看護と連携を取って実施している。見取りについては入所時に書面で説明している	利用者の高齢化、重度化が進む中で、「看取り指針」を作成しており、家族の希望を確認し話し合っています。今まで4名の方の看取りの経験をもとに、家族・医師・職員が連携をとり、その人らしく最期を迎えられるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署との連携を図り定期的に避難訓練・救急講習などの実施を行ったり、マニュアルなどを確認して急変時の対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、火災通報訓練や、避難経路の確認を行っている。	法人合同での避難訓練を年2回昼間想定で実施しています。夜間想定訓練や地域との協力体制については今後の課題です。	夜勤の職員も含めた夜間想定訓練の防災訓練や、地域との協力体制の必要性を運営推進会議に提議し意見を収集する等、話し合いを持たれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄時は、必ず個別対応し、トイレ誘導時には、耳元での声かけをするよう努めている。	管理者は、年長者に対する言葉遣いや一人ひとりに寄り添う支援に努め、排泄、入浴時のプライバシーへの配慮等、人格を尊重した声かけの重要性を繰り返し指導しています。言葉遣いの中に方言を交え、コミュニケーションを図っていますが、失礼のない話し方に注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に寄り添い、接しながら、本人の希望や要望を把握し、その思いを自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて食事の時間などを決め、利用者の状態にあわせての対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が来所し、カットしている。また、衣類などの購入を希望される利用者に対しては、職員と一緒に買い物に出かけ、本人の希望するものを買っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嚥下状態に合わせて、食事形態を考慮し、対応している。おやつは、各自希望を取り入れながら対応している。	食事は専門業者の献立と食材を用いて提供しています。汁物や一品は、季節感がわかるよう旬の物を使い職員が手作りしています。食の楽しみを心掛けており、おやつやイベント食には嗜好を反映した手作り食事は利用者に好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、朝・昼・夕と3回行い、残渣物・磨き残しが無い様に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えがあった時、食事の前後に定期的に声かけをして、トイレ誘導、介助を行っている。	利用者の能力に応じて個々のパターンを把握し、トイレへの誘導を行っています。利用者は可能な限りトイレでの排泄を基本としており、オムツ介助時も自尊心に配慮した声かけや、適切な排泄用品の使用で失敗のない支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、適度な運動、食事内容に気を付け、自然排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、本人の希望・体調により、変更しながら個々に添った支援をしている。	週2回の入浴を基本としていますが、その日の身体状況により柔軟な対応を行っています。利用者は職員との会話を楽しみにしており、入浴の好み(温度や時間)等個々に添った支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション・個別訓練を促し、個々の状態により生活リズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は、個人別ファイルにまとめており、職員がいつでも確認できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLの低下や認知症が進行しつつある方に個別の機能訓練を行い、「出来る事」を増やし、出来る限り楽しんでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や体調に合わせて、本人の希望があれば、(声かけに応じれば)散歩・外気浴を行っている。地域のイベントや四季折々の景色を楽しめるよう外出支援を行っている。	希望や天候等に応じて、周辺の散歩や中庭での外気浴、事業所から眺める田畑や山々に季節を感じ気分転換が図られています。個別ケアをもっと充実させるよう、家族の協力を得つつ、実現に向け取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる希望者には、家族と話し合いながら、お小遣いを所持していただいている。又、本人が希望するものがあれば一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を書いたり、出来る事は自分でして、出来ない事はお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の要望を出来る限り聞いて気持ちよく過ごせるように配慮している。	リビングは陽当たりが良く、明るく開放的で温度・湿度が管理され季節の花や行事の写真が飾られ、家族の面会時に利用者とのコミュニケーションの一つになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、自立できている利用者は2人。その様な状況なので、各々の訴えを出来る限り聞き、又、本人の要望を聞き取りながら過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居室になるよう、本人の好きなものなどを居室に飾りつけたり、置いたりするよう工夫している。	居室には、自分の馴染みの家具やテレビ、家族の思い出の写真を飾ったり、好きな花を置くことにより、居心地よく過ごせる環境作りを行っています。職員手作りの誕生カードに、温もりのある言葉が書かれており、利用者に対する思いやりが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、自立した生活が出来る利用者は2人ですが、出来る限り、見守りながら、「出来る事」「解ること」は、安全を確保しながらしていただいています。		